

### 医療面接での模擬患者(SP)さんの役割ってなに？

「本番」と「練習」における模擬患者さんの役割の違いは何なのでしょう？ 1月26日（土）の第3回模擬患者連絡会はこのテーマで実施しました。まず、「本番」での模擬患者さんに求められるのは、実際のOSCEにおいて”総合能力判定のために患者役を演じる”ことです。どの受験者に対しても一定のレベルで演じなくてはならないことから患者像はマニュアル化されており、シナリオも細かい所まで考えられています。また、綿密に作成されているため、演じる際の自由度はありません。特に、この”一定のレベルで演じる”ということとは高いスキルが必要となります。

これに対して、「練習」での模擬患者さんに求められるのは、学生の動機付けや医療面接のイメージづくりに寄与するような“シミュレーション”です。患者さんの心理面なども深く掘り下げて演じることが必要ですので、演じる人の個性や背景などをある程度自由に表現することができます。大変なのは、患者を演じるだけでなく、演技終了後すぐに、面接中に実際に起こった出来事や実際に言葉として発せられた事柄について、良い点、改善点等、具体的にフィードバックしなければならないことです。個人的な感想や経験の披露ではいけません。



「医療面接」のビデオを鑑賞 - 意見交換をするSPさんの様子 -

演技力もさながら「客観性」「記憶力」「に加え」「言語表現能力」など模擬患者さんに要求されることは様々です。大変である半面、「練習」での模擬患者さんの頑張りが愛知医大の学生を育ててくれていると言っても過言ではありません。今回の会を通して、模擬患者の皆さんには「医療面接の重要性」を再認識いただけたことと思います。いずれにしても、繰り返し練習を重ねていかなければならないものです。このため、模擬患者の皆さんにはご参集いただく機会が増えることになると存じます。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

### 共用試験CBT対策「基礎・臨床総合医学」の成果は？

2月1日（金）にCBT直前対策として「基礎・臨床総合医学」を実施しました。これは、当センターにおいて作成した問題集（出題が予想される典型的な臨床画像と過去の出題についてまとめたもの）を使っての講義・解説です。授業評価アンケートによると、直前だけでなく、もう少し早い時期にも実施してほしいという要望や種々改善すべき点もありましたが、総合的には「ためになった」など比較的高評価でした。

講義内容	時間	担当講座	担当講座
組織・病理総論	9:00 ~ 9:50	医学教育センター	林 講師
腎糸球体の病理	10:00 ~ 10:50	医学教育センター	林 講師
胸部Xp, CT	16:00 ~ 16:50	呼吸器・アレルギー内科	馬場准教授
脳血管障害のCT	13:00 ~ 13:50	脳卒中センター	道勇教授
白血病とその類縁疾患のMay-Giemsa染色像	14:00 ~ 14:50	血液内科	三原准教授
消化器系画像	15:00 ~ 15:50	医学教育センター	福沢教授

この対策講義に加えて、当センターを積極的に訪ね、毎日のように学習に励んでいた学生も見受けられました。結果的には、全員クリアとはいきませんでした。各自手ごたえはあったようで、大学平均点は前年度比2ポイント上昇しました。また、来年度についても引き続き「医学教育向上プロジェクト委員会」を開催し、学生と共に愛知医大の教育について考えていきますのでよろしくお願いいたします。遅ればせながら、今回の対策講義をご担当くださいました先生方（左表参照）には、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

# 「共用試験OSCE」直前, 4学年次生はどんな準備をしていたの?

共用試験 OSCE を前に, 2 月下旬にリハーサル形式での「医療面接実習」や各種「身体診察実習」を行いました。これら実習の時間以外にも多くの学生は, 自主的に 7B 病棟の「スキルス・ラボ」や大学本館 7 階の医学教育センター内「ミニ・スキルスラボ」を利用していました。実習で不十分と感じたものや弱点の克服に力を注いでいたようです。試験では, 多少戸惑う場面も見られましたが, 多くの先生方のご協力があり, 無事終了することができました。本当にありがとうございました。評価者への事前説明の実施方法や内容など反省すべき課題は多く挙がりましたが, 一つ一つ確実に改善していきますので, 今後ともよろしくお願いたします。



スキルス・ラボ - 胸音聴診 -



スキルス・ラボ - 血圧測定 -



医学教育センター内 ミニ・スキルス・ラボ - 身体診察各種 -

# その他の活動報告

7 月から 2 学年次において実施されました「基礎医学セミナー」が無事に終了しました。当センターに初めて学生が配属となりましたが, 普段とは違う新鮮な気持ちで「医学教育」を見つめられる時間でもありました。リサーチマインドを有する 6 名の学生が当センターでの学習を希望してくれ, 3 テーマを 2 名ずつ担当し, 発表会 (3 月 12 日 (水), 13 日 (木)) を迎える直前まで努力してくれました。自らの研究と試験勉強の両立に苦しむなど研究以外の壁もあったようですが, それぞれが仲間と助け合いながら目標を達成したとき, 皆清々しい顔をしていました。将来, 医療チームの一員として患者さんと共に病気に立ち向かう自分の姿を研究の中にかいまみることができたのかもしれない。当セミナー生始め 2 学年次の皆さん, ぜひ, 今回の経験を生涯教育における有益な潤滑油としてください。

《テーマ》	《担当学生氏名》	《発表を聞いた他の学生の感想を一部紹介》
I 「出席率と成績の関係」	近藤ゆり亜, 山口 正	相関が分り易く興味を持てた。予想通りだったが分かってよかった。
II 「夏期休暇と成績の関係」	川口加那, 黒木聡子	これがかなり改善に繋がると嬉しい。個人情報取扱の難しさが分かった。
III 「学生の望むカードは回収率を上げるか?」	伊藤克樹, 北村文也	着眼点が意外で面白かった。どれも細かく分析できていた。

※他のセミナーの感想については, 別の機会でご報告される予定です。



それぞれの研究成果を報告し合うセミナー生たち

